

武蔵野調理師専門学校

【学校目標（スローガン）】

コロナ禍に対応した調理師養成教育の実施。

【優先課題】

中期目標（ビジョン）達成に向けた中で、コロナ禍の経験を反映し、より安心(環境整備)・安全(感染予防対策)・安定(オンライン授業等新たな授業環境)した教育システムの構築と、本校の最大のストロングポイントである就職実績について、コロナ禍における外食産業界の動向を踏まえ新たな就職指導の在り方と充実を図る。また、コロナ禍を機に変化するであろう新しい生活様式に備えて、コロナ収束後の本校の教育の在り方を模索する。

【全体総括】

コロナ禍2年目の令和3年度でしたが、引き続き生徒の安全を第一優先に考えながら安心安定した教育の実施を念頭に置いて、1年目の経験値を踏まえ各種行事をはじめ出来る限り教育活動の再開実施に取り組み教育の充実を図った。教育成果の一つである就職率では、コロナ禍において甚大な影響を受けた外食産業でしたが、生徒の希望を重視し希望に即した内容で98%を達成した。しかしながらその風評からか生徒募集に関しては厳しい結果と成ってしまいました。また経営改善計画検討委員会が発足し、調理師専門学校の収支改善に向け様々な取り組みを検討する1年となった。

【各戦略領域における活動概略】

※ 達成度は ◎ ○ △ × の4段階

戦略領域	概 略	定 性 的 目 標 定 量 的 目 標	定 量 的 目 標 の 結 果	経 緯 と 結 果	達成度 ※	成 果 向 上 方 策	問 題 点 改 善 方 策
(1) 教育の充実	対面授業が難しい場合の教育方法としての課題や動画による授業開講の準備を進める	授業動画及び授業課題の作成	授業動画の準備が整った。	実習教科は基本実習の動画が、座学教科は一部科目を除く全講義のオンデマンド授業の準備が開講前に整った。	○	実習動画は基本の復習の目的で使用することができた。	
(2) 学生募集	教育内容の充実を図ったうえで、最新の教育情報共有をし入学対象者に発信する	・各科の特徴を示す資料を更新し体験入学等で使用する ・ターゲットを意識した体験入学の実施	各科共に入学者減少となった	各科のカリキュラムを充実させる為の検討と実施をした。体験入学展示資料も更新した。ターゲットへの発信力に課題が残った。	△	体験入学では最新の情報提供が出来た。	入学対象の新規開拓。首都圏内での入学者の少ない地域へのアプローチ強化。
(3) 学生支援	学生指導に関わる教育指導の統一と改善	改善マニュアルの作成	各資格取得率も受験者に対して7割以上と高かった	コロナ禍でほぼ全ての行事が実施できなかった。	△		
(4) 就職支援	コロナ禍の新生活様式と共に活動する学生の就職支援と、社会人基礎力の修得	関係業界（新たな職種の開拓）	数字的には98%を超える内定状況	コロナ禍での求人企業が減少することを想定していたが、少子化に伴う若年層の育成に危惧する企業は求人年平均より1社においては少ないが企業者数は増えたことによる。	○		
(5) 社会貢献・外部連携	コロナ禍における調理分野での新しい社会貢献活動（ボランティア・食育教室）と外部連携を検討・実施	社会貢献活動の実施と研修制度のさらなる充実化	概ね例年通り実施	コロナ禍を心配していたが、規模を縮小しながらも実施。参加者からも喜んでいただき実りある内容であった。	○		
(6) 組織・運営体制	コロナ禍の新しい生活様式のもとで、新たに可能な教員研修のあり方を検討する	研修検討委員会の設立	委員会の設立、及び研修制度の検討まで至らなかった	実習・教務の内部人員のやり繰りとコロナ対応、及び学生数減に対応するための諸対策に繁忙され、実行できなかった	×		
(7) 施設設備	安全、衛生を軸として、さらにコロナ感染予防策も視野に入れた教室・実習施設の改修	ソーシャルディスタンスを踏まえた施設の整備の充実	施設整備はほぼ実施せず	耐震工事に伴う改修工事の検討がされている為、施設改修に至らず	×		
(8) 財務戦略	コロナ禍を踏まえて留学生受け入れ態勢の見直しを図る	留学生受け入れ可能人数の設定	設定見送り	コロナ禍の継続で不確定要素が多く意思統一するには時期早々と判断	△		国の政策に大きく左右される。

【中期計画に基づく具体的施策】

(1) 教育の充実

※ 達成度・評価は ◎ ○ △ × の4段階

具体的施策			計画内容				結果および自己評価					学校総括	
中期計画 番号	施策名	担当 組織	これまでの教訓 (現状分析・課題)	内容 (目的・意味/手段・行動)	達成基準 (ゴール・目標)	想定され る費用	経緯と結果 (変更点・実施内容・達成内容)	費用	達成度 ※	成果 向上方策	問題点 改善方策	コメント	評価 ※
1	特別講義における教育内容の精査	実習課	新型コロナウイルス感染予防対策を講じながらの授業運営に終始したため、内容の精査にまで至らなかった。準備の期間を慎重に考える事と担当に教務課も加えるべきだった。	教育内容の精査をするための資料を作成し周知を図る。客観的に確認できる資料とする。また、実習・教務が共有できるツールとしての役割も持たせたい。	特別講義（外来講師）の教育に関わる資料の作成		実習外来講師に関する資料を担当者ごとに作成頂いた。全ての講師について作成はかなわなかった。また、教務担任の使用も少なかった。		△	今後の授業内容や講師決定の際に参考にできる客観的資料の作成は出来たが、教務担任が共有出来るツールとして利用出来ていなかった。	資料の更新は引き続き行い、担任が使用するよう周知を強化する。		△
2	調理に関する知識を具現化した調理実習	実習課	新型コロナウイルス感染予防対策を講じながらの授業運営に終始したため、実習授業に座学講義を織り込むまでに至らなかった。準備の期間を慎重に考え、教務課も担当すべき。	実習シラバス作成に際し、学問的内容をどう織り込むか考察する。	令和5年度用シラバスを理想の形として完成		経営改善のための取り組みとして多くの部分で改善・改革が必要となった中で、理論的内容が多く汲み入れられ、理論が実証される実習が可能なシラバスの作成につながった。		○	2022（令和4）年度シラバスの完成。総合調理実習（集団調理実習）のレシピも新たに掲載できた。	総合調理実習（集団調理実習）のシラバスの更なる改善が必要。	シラバス完成で統一の指導が出来るようになった	○
3	時代の変化に応じた専門技術の研究	実習課	従来通りの研修や講習会開催が難しくなったため、研修会等のあり方を再考する必要があります。	時代の変化に応じた専門技術の研究をどのように行うのか考察する。	専門技術研修の研究推進担当の決定及び指針の決定。		研修担当は技術顧問が担当、希望する教職員は誰でも参加できるとの方針も決定された。		△	令和4年度より研修実施予定。		技術顧問の助手をつとめ技術向上をはかる	△
9	授業研究の促進	実習部・教務部	オンライン授業への随時切替可能な体制を整える必要性を実感。講義の録画を進める。	オンライン授業にいつでも切り替え可能な準備を進める為、録画機材、パソコン、プロジェクター、スクリーン等の整備を進める。担当講師が一定期間出校停止となってもオンライン用録画講義があれば教育の遅滞にはつながらない為。	パソコン、プロジェクター、スクリーンを各教室に整備する。また、動画撮影用ビデオカメラ（周辺機器を含む）の購入。	環境整備費用として300万円	座学・実習ともオンデマンド授業用の教材（ビデオ講義）の準備は出来たが、年度途中から経営改善計画に則り経費削減を実施した為、環境整備は出来なかった。		△	オンデマンド授業教材により学級閉鎖時の授業対応ができ教育の遅滞は免れた。また、実技の教科では特に実技試験の復習のために各自が視聴、一層の技術向上につながった。	経費削減により新規購入はできなかった。座学授業ではプロジェクターを使用する講師も多くなり、毎授業毎の機材のやりくりが業務となった。	休校を逸がれ対面で技術向上につながった	○
10	校外研修の充実	教務課	コロナ禍において学外での実習・研修が実施できませんでした。また、新しい生活様式においての学外実践教育の充実を図る為の指導が必要。	学校の教育方針に従った実践教育を行えるよう研修先との連携を強化、学生への意義付けを徹底する。	学生が考える実践教育と教職員が学んでもらいたいと思う実践教育の差を埋めるツールを作る。		コロナ禍により受入可能かどうかの判断が実施予定間際まで決定されない事もあり、指導は従来と変わらずに行った。		×				○
11	人格教育委員会での決定事項反映	人格教育委員会	旧委員は啓発ポスターの掲示を行っていましたが、新委員は未だ該当委員会には出席をしていない為、今後の方向性は会議出席の後決定予定。	人格教育をどのように推進し、学生への理解を深める方法を考察する。	学生へのアプローチ方法を検討・決定・実行。		人格教育委員会が開催されなかった為、活動はポスター掲示のみにとどまった。		×	毎月のポスター掲示を通して啓発活動に代えている	共通認識に欠ける部分がある。		×

(2) 学生募集

※ 達成度・評価は ◎ ○ △ × の4段階

具体的施策			計画内容				結果および自己評価					学校総括	
中期計画番号	施策名	担当組織	これまでの教訓 (現状分析・課題)	内容 (目的・意味/手段・行動)	達成基準 (ゴール・目標)	想定される費用	経緯と結果 (変更点・実施内容・達成内容)	費用	達成度 ※	成果 向上方策	問題点 改善方策	コメント	評価 ※
12	最短で免許取得のレベル強化	調理師科課 実習部	出願者が減少しているので、1年間で調理技術の修得が出来る事とやってみたいと思わせる魅力のあるカリキュラムに再構築し、外に発信する事が必要。	一般実習カリキュラムの再構築(コースに合わせた魅力ある実習内容)と専攻別総合調理実習(実践力に繋げる内容)の充実。	・実習カリキュラムの再編成。 ・専攻別総合調理実習の授業目的を明確にする。		専攻別総合調理実習にて調理技術検定を実施により実施せず。		×	全調教基準の技術認定試験2級の取得が出来た。	専門的調理技術の向上に繋がったかの検証が必要となった。	調理実習の結果なので指導の見直しが必要	×
13	外食産業界を担う人材教育の実践と周知	高度調理経営科課 実習部	外食産業界の理解が薄い学生がほとんどなので、実践力をつける授業内容の充実を図る事が、科の魅力に繋がり、入学対象者へのコンタクトポイントになると考えられる。	調理業務の実践強化(校外実習前指導の内容構築と授業内容の充実)。	・校外実習の教育目的と特別講義の教育目的を明確にする。 ・賞味会を通して職業性の理解を身につけた事を確認する。		コロナで企業側の受け入れに制限があり、一部校内実習を実施。賞味会はコロナ対策により学内のみの開催。		△	コロナにより実施決定までに時間を要し、例年通りの指導にて開催。	昨年の反省を学生指導、準備に反映させる。		△
14	料理と製菓の技術を持った食をトータルで提供するカリキュラム内容を発信	ダブルプログラム科課 実習部	職業としての製菓職の理解を深め、幅広い引き出しを持つ事の出来るカリキュラム内容である事を見える化し、アピールする力を付ける事が課題。	・資格取得と実践力の強化(カリキュラム内での業務実践) ・学校名の検討	製菓業務実践に関する新しいアプローチをする。		資格取得へのサポートを強化し、結果にも現れた。学科名の変更をした。		△	エスポワールなどはコロナ禍対応で新しい取り組みを加え実施した。	引き続き、新たなアプローチの検討		○
15	既卒者含め幅広い対象者への継続的なアプローチをする	調理師科課 実習部	体験入学の中で、1年間で調理技術が身につく、専攻別総合調理実習でより専門性を深めるなどの魅力を伝えきれていない事が課題。	・科の特徴となる授業・教育内容をコンパ外な形で体験できるスタイルを作る。 ・ターゲットを定めた体験入学を実施する。 ・Webによる学校説明会の内容の充実。	・参加者の望む内容で広報活動が出来よう体験入学の内容の再構築。 ・調理師科の教育内容を発信できる資料を作成する。		資料作成、内容の検討をしながら体験入学を実施。		△	学生募集に苦戦した。	入学対象者に向けて教育内容の発信場所とその手段の検討。	体験入学の結果、内容が悪いのか？創意工夫が必要	△
16	専門技術・知識の修得と社会人基礎力を身につけるカリキュラムをアピールする	高度調理経営科課 実習部	入学対象者に2年間養成の目的、授業カリキュラムや教育目的の理解を深めてもらい入学意欲を高めてもらう工夫が必要。	・科の特徴となる授業・教育内容をコンパ外な形で体験できるスタイルを作る。 ・ターゲットを定めた体験入学を実施する。 ・Webによる学校説明会の内容の充実。	・参加者の望む内容で広報活動が出来よう体験入学の内容の再構築。 ・高度調理経営科の教育内容を発信できる資料を作成する。		内容の検討をしながら体験入学を実施。		△	概ね学生募集に繋がった。	入学対象者に向けて教育内容の発信場所とその手段の検討。	体験入学の結果、内容が悪いのか？創意工夫が必要	△
17	早期対応で料理・製菓と幅広く検討している対象者へアプローチする	ダブルプログラム科課 実習部	体験入学参加者の学校理解や調理の魅力を伝える事は出来ているが、出願に繋げることが難しい。	・科の特徴となる授業・教育内容をコンパ外な形で体験できるスタイルを作る。 ・ターゲットを定めた体験入学を実施する。 ・Webによる学校説明会の内容の充実。	・参加者の望む内容で広報活動が出来よう体験入学の内容の再構築。 ・ダブルプログラム科の教育内容を発信できる資料を作成する。		内容の検討をしながら体験入学を実施。		△	学生募集に苦戦した。	入学対象者に向けて教育内容の発信場所とその手段の検討。	体験入学の結果、内容が悪いのか？創意工夫が必要	△

(3) 学生支援

※ 達成度・評価は ◎ ○ △ × の4段階

具体的施策			計画内容				結果および自己評価					学校総括	
中期計画番号	施策名	担当組織	これまでの教訓 (現状分析・課題)	内容 (目的・意味/手段・行動)	達成基準 (ゴール・目標)	想定される費用	経緯と結果 (変更点・実施内容・達成内容)	費用	達成度 ※	成果 向上方策	問題点 改善方策	コメント	評価 ※
20	全教職員によるサポート体制の構築	メンタルヘルス課 担当	メンタルで悩む生徒が増えてきた。令和2年度より、実習職員も参画し、組織の運営を行っている。教務及び実習両方から細やかなサポートができるシステムを構築するようにする。	現行のマニュアルを見直し、担任、実習職員を含めた全教職員によるサポートの実施とマニュアル作り。	昨年度のマニュアルの内容を精査し、教務だけではなく、学校全体でサポートできる体制のマニュアルを構築する。		メンタルヘルス研修参加任教数7名と少なかった。		△		時期を見直すとともに、教職員の意識を変えていく。		×
21	カウンセラーを交えた教育相談の定例化	メンタルヘルス課 担当	メンタルで悩む生徒が増えてきた。メンタルヘルス対応の整備、及び教育相談での情報共有を定期的(9月、12月、3月)に行っている。メンタルヘルス対応の再考を実施。	カウンセラーを交えた教育相談会議の定例化及び内容の整備を行い、学生対応の方針を学校で共有する。	開催通知を事前に配布するとともに、目的、議題を明確にし、内容のある会議の実施。数ある生徒の問題に対し、学校全体でどのような対応ができるのか模索する。		情報共有の会議を実施することができなかった。		×	担任や各科のサポート体制が整ってきているのかメンタルヘルス責任者まで情報が上がってこなかった。	メンタルヘルスの流れを再検討が必要。		×
22	奨学金利用者の支援	奨学金課 担当	新型コロナウイルスの影響で、奨学金利用者が増えることが予想される。奨学金担当者の負担が増えているのが現状である。担任が少しでも奨学金担当者の負担の軽減の一翼を担えればと考える。	新型コロナウイルスにより、例年以上に利用者増が見込まれる。担当者だけではなく全教員が対応できるマニュアル作りを引き続き実施する。	奨学金新制度の利用状況を踏まえ、必要な資料等を整理しながらマニュアルを作成する。		担任に各クラスの利用者の手続き、書類提出などの協力依頼		△	担任の協力により、担当者の負担も軽減しつつある。	担任への協力依頼、マニュアルの作成継続。		○
23	新入生研修の内容再検討	SS課	トレッキングの帰路は、公道を使用するなど危険性が伴う。また、雨が降ると施設的に代替カリキュラムがないこともあり、施設の選定も必要。	研修の効果を精査し、時代に即した研修内容にする。また、コロナ禍に於いて、教育効果の高い研修内容を模索する。	研修内容を精査し、作成案を新たに構築する。講師の選定を行う。	学費検討	コロナの為中止		×	年度を跨いだが来年度に向けて、新しいプログラムを検討中			×
24	研修旅行の計画及び実施	ダブルプログラム科	ダブルプログラム科の研修を模索してきたが、進行しておらず、野菜ソムリエ協会と連携していきたい。	外食産業界に則し、6次産業等を学ぶべく研修要素の高い研修旅行の計画及び実施。	研修要素の高い研修内容の模索。情報収集に努める。	学費検討	令和5年度のカリキュラム変更に向けて精査している。		△	ニーズを確認し、カリキュラムに反映できるように準備をしている。	教学改革プロジェクトと連携し、カリキュラムを構築する。		△
25	学則・諸規則の整備と運用	SS課	学則に対しての、細かな罰則規定が文面化されておらず、その場その場での対応となるため、指導が一貫されていない。文面化、懲罰会議を設け基準を統一する必要がある。	学則・諸規定で曖昧な点を精査して文面化する。懲罰等の学生対応も会議の場を設定し基準を明確にする。	学則内容を整理し、添削を行う。懲罰等の段階を振り分け会議の基準を設ける。来年度実施に向けて基盤の整備を行う。		進展なし		×				×

具体的施策			計画内容				結果および自己評価					学校総括	
中期計画 番号	施策名	担当 組織	これまでの教訓 (現状分析・課題)	内容 (目的・意味/手段・行動)	達成基準 (ゴール・目標)	想定され る費用	経緯と結果 (変更点・実施内容・達成内容)	費用	達成度 ※	成果 向上方策	問題点 改善方策	コメント	評価 ※
26	学校行事の意義 づけの徹底	S S 課 ・ 担 任	各科の学校行事に関して、目的を明確に示す。また、体育祭は遠方での開催ということもあり、生徒からの不満が出ている。体育祭の意義や楽しみを見いだせることが課題。	学生が積極的に学校行事に参加できるように各行事の意義を明確化し、伝達・共有する。	各行事の目的や意義を明文化する。来年度の伝達方法のマニュアルを確立する。		行事自体がコロナの為中止。その中でも卒業作品展などはしっかりとマニュアルを作成し実施。		△				△
27	資格取得へのサポート	S S 課 ・ 担 任	生徒に対し、資格の優位性を話をしているが、資格取得率が低迷。資格の打ち出しや時期等再検討が必要と感じる。	各資格が将来どのように役に立つのかを明確化した上で受験者数・取得率向上のためのサポートを実施。	過去数年の資格取得率低下の原因を精査し、資格の優位性を示した資料を作成する。		資格について担任が伝えやすいように資料を作成。オリエンテーションで利用。		○				○

(4) 就職支援

※ 達成度・評価は ◎ ○ △ × の4段階

具体的施策			計画内容				結果および自己評価					学校総括	
中期計画 番号	施策名	担当 組織	これまでの教訓 (現状分析・課題)	内容 (目的・意味/手段・行動)	達成基準 (ゴール・目標)	想定され る費用	経緯と結果 (変更点・実施内容・達成内容)	費用	達成度 ※	成果 向上方策	問題点 改善方策	コメント	評価 ※
28	就職先選定基準 の明確化	就職課	働き方改革に沿って、新卒の教育を意識している企業を各職種抜粋する必要がある。業界に輩出する学生が減少にあるので、きめ細かな指導に配慮するよう意識する。	就職先基準とするガイドラインを文書として求人票と同封する。また、来校頂いた企業には文書の内容を周知して頂く。	学校としての指導を理解して求人票・卒業生名簿の返送をしてくれていると判断したい。人を介すことなので構築に時間を要したい。		コロナ禍であることで、業界、企業に関しても手探りの運営であり、判断は難しい中ではありますが、概ね職掌担当は意識し遂行している。		○	継続し周知する。	コロナ禍である為、平年とは採用に関しても違うので、構築に時間を要し継続。		○
29	就職の方針に関する企業側の理解促進と企業開拓	就職課	社会状況に応じた働き方ができ、職業としてのスキルを向上させるように努める企業を検討できるように情報収集を各職種担当でまとめる必要がある。	各職種担当に働き方改革につけるよう周知する。各職種担当が偏りのない分析ができるようつとめる。	ホテル等関係企業は働き方改革にほぼ準じる施策で動いているので、専門店、集団調理企業については10社優先企業を絞り、列挙する。		コロナ禍である為、来校求人が減ったこと、開拓は特にせずの年となる。		△	優先企業先の絞り込みの継続			△
32	就職セミナー等の充実・プロジェクト、P Cなどの環境設備の充実	就職課	企業との連携により効果的な学生理解を深めるセミナーの実施。近年セミナーの際にはプロジェクト・P C等使用頻度が高くなっている。90%以上の企業が使用のため、設備の充実を図りたい。	就職セミナーの目的を担任指導・担当者指導を通して伝えていく。・設備充実により円滑な進捗が望めると共に視覚効果を利用し職業理解につなげたい。	実施後の感想文、アンケートを行い目的の掌握に努める。	200万	コロナ禍のため、セミナー方法の変更、企業を分散し放課後來校に協力企業、学生の密集に努めるなど、機材をうまく利用して実施のためには、設備の充実の継続に務めたい。		△	環境整備の充実			○
33	研修などを通じた実践的職業理解の促進・オンライン設備の充実	教務部・就職課・担任	夏期研修・インターンシップ・職業実践高度調理経営科研修など実体験による職業意識を実施。会社説明会・試験・適性検査・内定式など新たな採用計画の在り方に即した設備(備品)・場所の充実を図りたい。	現場を知ることで新しい気づきが生じ、技術習得・知識の必要性を思い学校生活に反映させたい。・学内に対応できる場所があれば指導上安心であること。WI-FI環境の充実(就職支援室)電話の開通・防音(天井から5階実習時の音がすごい為)	担任・担当者を紹介し誘導的指導が出来たか、参加人数、報告書などで分析していく。円滑な企業とのやり取り(採用内定)	50万	コロナ禍もあり、研修の受け入れには苦慮した面と、オンラインの説明会・選考等が多くなった。		△	オンラインに対する学生の順応性は目覚ましさがある。継続した施設の充実。	就職支援室のWi-Fi環境があるとありがたい。		△
36	社会人基礎力向上のための個別指導の強化	就職課・担任	学校もいち社会でありクラスメイトとの交流、就職活動を通して自己理解を深めさせる必要がある。	面談・履歴書作成・エントリーシート作成・自己分析シートなどの必要物の取り組みにて担任指導・担当者指導の支援を通し理解させてたい。	学生の1年・2年間での就職先決定を達成基準とする		社会情勢の変化で学生が外食産業に向けるイメージダウンにならないよう担任より業界の情報、求人がある事を流し、就職決定に結びつけた		○	学内においては、1年間の学生はこういう環境でも進路をきちんと決めなくてはという意欲は感じた。	研修、アルバイトなどの経験不足からか自己PRの弱さを感じることがあった。		○
30	企業への離職率確認、依頼及び企業側のニーズの把握	就職担当者各位	卒業生名簿・人事との連絡	早期退職、離職者を減らすために内定者指導の充実を図る。また、専門店等はインターンシップなどギャップを減らす様努める。求める人材、経営方針を企業側に採用時レクチャーしてもらう。	卒業生名簿の回収		コロナ禍である為、来校求人が減ったこと、開拓は特にせずの年となる。社会情勢にてやむなく業界離れたホテル関係等の若年層の離職の連絡は平年より多かった。		△		離職が出たこと、人事の方は在宅勤務等が多く回収は前年より減ってしまいました。社会状況での難しさを感じました。		△

具体的施策			計画内容				結果および自己評価					学校総括	
中期計画 番号	施策名	担当 組織	これまでの教訓 (現状分析・課題)	内容 (目的・意味/手段・行動)	達成基準 (ゴール・目標)	想定され る費用	経緯と結果 (変更点・実施内容・達成内容)	費用	達成度 ※	成果 向上方策	問題点 改善方策	コメント	評価 ※
43	同窓生の現状把握を行う	教務部・実習部	来校した卒業生に対して、総合学園祭の際に同窓生名簿の記入を依頼している。	今後も同窓生名簿の依頼を継続し、それを職員が共有する	毎年、内容を検討し継続して行う。		本年度より卒業生の個人情報を確保することができた。		○	卒業生に卒業生アンケートを実施し、メールアドレス等の情報を乳sy酔することができた。今後、情報を発信していく。		学校行事には同窓生は必ず招待する。連絡は必ず元担任	○
44	広報部と連携をし、同窓会組織の強化を行う	教務部	同窓会組織の運営がされていないので強化する手段を検討	ホームページ内の卒業生向けページを使用し、同窓生の現状把握、組織強化を行う	毎年、内容を検討し継続して行う。		広報部と連携して調整している		△		引き続き調整	学校行事には同窓生は必ず招待する。連絡は必ず元担任	△
45	インターネット等の媒体を有効活用した卒業生サポートの充実	教務部	卒業後のサポート体制を確立するために検討・実施が必要だと考える。	卒業生サポートセミナー(再就職サポート、開業・店舗運営・講習会)等を行う。	毎年、内容を検討し継続して行う。		広報部と連携して調整している		△		引き続き調整	学校行事には同窓生は必ず招待する。連絡は必ず元担任	△

(6) 組織・運営体制

※ 達成度・評価は ◎ ○ △ × の4段階

具体的施策			計画内容				結果および自己評価					学校総括	
中期計画 番号	施策名	担当 組織	これまでの教訓 (現状分析・課題)	内容 (目的・意味/手段・行動)	達成基準 (ゴール・目標)	想定され る費用	経緯と結果 (変更点・実施内容・達成内容)	費用	達成度 ※	成果 向上方策	問題点 改善方策	コメント	評価 ※
46	職員室の一体化による業務の互恵的関係の構築	(総務・学校全体連携)・広報・財務部と	各部門がそれぞれ独立しているため、専門性の向上には役に立っているが、人材の有効的な流用が行えていない	調理師学校での準備委員会を立ち上げ、各部門との折衝に入れるような体制を整える	準備委員会の立ち上げと定期開催		コロナや学生数減への対応などで、多忙になった業務のため対応できなかった		×		実習・教務共に内部での異動が増えた事と、学生数の動向もあるので、いましばらく対応は困難と考えられる		×
47	実習助手職員の専門以外でのプラスワン担当力の育成	実習部	各料理ジャンルがそれぞれ独立しているため、専門性の向上には役に立っているが、人材の有効的な流用が行えていない	職員の希望も考慮しつつ、調理師科グランドステージの見直しを機会に、助手職員の流用性を高めていく	複数の助手職員の異動		実習の行われないセクションからのヘルプ制度が実行されており、業務多忙な中、着実に進んでいる		○		実習教務間及び実習内部での異動が増えたので、今後の積極的な継続に続けていく		○
48	教務職員の実習助手対応力の育成	教務部	各部門がそれぞれ独立しているため、専門性の向上には役に立っているが、人材の有効的な流用が行えていない	水田先生のパターンをモデルに、職員の希望を考慮しつつ対象者を増やしていく	教務と給食室との人材交流を進める		授業や行事に於けるコロナ対応で、業務が増え対応できなかった		×		クラス減にともなう教務職員の削減と業務の集中で、積極的な対応は困難と思われる		×
49	ホテル、レストランへの調理場短期研修	実習部	学生を送り出す職場に対する現状を体験することが、学生指導に還元されより効果的な指導につながる	コロナ感染対策下では、外部への研修の依頼、取り組みは困難と考えられるので、別途有効な研修のあり方を検討していく	研修検討委員会の立ち上げと定期開催		コロナ禍により、実行が無理であった		×		アフターコロナを鑑み、実行は難しいと考えられる		×
50	ホテル、集団調理施設への調理場短期研修	教務部	学生を送り出す職場に対する現状を体験することが、学生指導に還元されより効果的な指導につながる	コロナ感染対策下では、外部への研修の依頼、取り組みは困難と考えられるので、別途有効な研修のあり方を検討していく	研修検討委員会の立ち上げと定期開催		コロナ禍により、実行が無理であった		×		アフターコロナを鑑み、実行は難しいと考えられる		×
51	研修委員会の設立と研究発表の定期開催	実習・教務部	教育機関としての使命を果たすべく、職員の意識と知識の向上のために、学び触発を受ける場が必要と考える	研修検討委員会に於いて研修制度の在り方とともに、実現に向け検討していく	研修検討委員会の立ち上げと定期開催		コロナや人員減などの対応で、業務が多忙になり対応できなかった		×	料理顧問以上を中心に進めていく			×

(7) 施設設備

※ 達成度・評価は ◎ ○ △ × の4段階

具体的施策			計画内容				結果および自己評価					学校総括	
中期計画 番号	施策名	担当 組織	これまでの教訓 (現状分析・課題)	内容 (目的・意味/手段・行動)	達成基準 (ゴール・目標)	想定され る費用	経緯と結果 (変更点・実施内容・達成内容)	費用	達成度 ※	成果 向上方策	問題点 改善方策	コメント	評価 ※
52	ロッカー室の整備・美化(安全面、盗難防止強化)	教務部	限られたスペースに学生数が増加した際には、ロッカーを増やして、そこに多くの学生が混雑する中使用している。	倉庫の様な設えから、学生が使用するに相応しい施設として整備美化に努めることはもとより、コロナ感染予防のための三密を避けるための環境整備。	学生数がここ数年減少する中、使用していない空きロッカーを移動しスペースを広く使用できるようにする。		人数の減少に伴い、スペースに関しては、以前に比べ若干取れているものの今後学生数が増えた時のことを考慮するとロッカーの配置変更までには至らない状況である。		×		入学者数の増減を鑑みるとそこまでスペースの確保は難しいところである。		×
53	サービス演習室の整備	教務部	サービス演習室の絨毯のすり減りが激しく605教室のサービス演習室には、洗い場もなく製菓講義室で洗浄をしている。教育の充実を図る上で環境整備も急務であると考えられる。	5号館1階の演習室の絨毯の張替えと1号館605教室のサービス演習室としての環境を整備する。	絨毯張替えと605教室での授業後に使用できる水回りの増設。		耐震工事に伴う改修工事が検討されている為、実行せず。		×		耐震工事に伴う改修工事も検討されておりますが、大々的に張替えや設備投資となる際に費用面でも問題があり修善に至らない状況である。		×
54	講義室の座席の快適化	実習部	学生数の減少に伴い座席が余っている講義室がある。またソーシャルディスタンスを踏まえると前後左右と座席の幅・間隔も狭く、密接しており窮屈さを感じる。	受講する学生数に見合った座席数に変更し、受講する学生の座席のスペースを広くする。	現在の適正学生数を踏まえ座席が多くある実習室は座席幅・間隔を取るなどしてスペースに余裕のある席・机の設置。		耐震工事に伴う改修工事が検討されている為、実行せず。		×		耐震工事に伴う改修工事も検討されておりますが緊急性も低く、修繕費など含め実施事態が難しいところである。		×
55	校内の安全確保	教務部	これまで年度末に修繕箇所を洗い出し総務に依頼を出していた為、新学期までに改善される所と大がかりな所は新年度に持ち越されての改善、そのまま次年度も過ぎてし合うことがあった	見落としがちな細部の修繕箇所を早急に修繕できるようにする。	修繕箇所を速やかに修繕し、不備な状態が短期間であるように努める。		一部、階段の床面張替え実施。		△		耐震工事に伴う改修工事も検討されており、実施に至らずという状況である。		×
56	実習室の施設・機器類の最適化	実習部	老朽化が酷いため新しくしても、次から次へ設備の入れ替えを行っている。	各実習室の老朽化した機器類を現場に近い設備に近づける為の機器の入れ替えと設備の整備。	各担当で機器類に関して最適化すべき箇所を検討し一覧化する。「施設設備不備事項一覧」と照らし合わせながら改善時期の計画を明確にする。		耐震工事に伴う改修工事が検討されている為、実行せず。		×		「施設設備不備事項一覧」と照らし合わせながら改善時期の計画の不明の為、明確に出来ませんでした。		×
59	実習室の衛生とスムーズな見学場所の確保	実習部	通常授業の際に見学者は、外履きで実習室へ入出、見学をしている状態。出来るだけ授業の際に出せずに見学できる環境を整えることが必要。	様々な場面や調理に関しても安心・安全・衛生が強いられる中、部外者の入室を少なくし衛生を保つために実習室の壁を一部ガラス貼りにし廊下からでも見学しやすくする。	3階日本料理、4階西洋料理の各実習室が該当するため業者選定と施工時期の検討。		耐震工事に伴う改修工事が検討されている為、実行せず。		×		耐震工事に伴う改修工事も検討されておりますが緊急性も低く、改装費など含め実施事態が難しいところである。		×

具体的施策			計画内容				結果および自己評価					学校総括	
中期計画 番号	施策名	担当 組織	これまでの教訓 (現状分析・課題)	内容 (目的・意味/手段・行動)	達成基準 (ゴール・目標)	想定され る費用	経緯と結果 (変更点・実施内容・達成内容)	費用	達成度 ※	成果 向上方策	問題点 改善方策	コメント	評価 ※
61	トイレの整備	(総務部と連携) 教務部	手洗い用の液体石鹸入れが壊れてそのままボトル石鹸が置いてあったり、普段人目にさらされないからこそ整備が必要と考えられます。	悪臭対策とコロナ感染予防対策にもある手洗いを励行させるためにも手洗い場の整備と破損している設備の排除を行い衛生的に使用できるような洗面台の設置と環境美化。	各フロアのトイレの洗面台整備と破損個所の撤去と整備。		耐震工事に併せてトイレの改修工事計画があるため実施せず。		×		耐震工事に伴う改修工事も検討されており、実施に至らずという状況である。		×

(8) 財務基盤

※ 達成度・評価は ◎ ○ △ × の4段階

具体的施策			計画内容				結果および自己評価					学校総括	
中期計画 番号	施策名	担当 組織	これまでの教訓 (現状分析・課題)	内容 (目的・意味/手段・行動)	達成基準 (ゴール・目標)	想定され る費用	経緯と結果 (変更点・実施内容・達成内容)	費用	達成度 ※	成果 向上方策	問題点 改善方策	コメント	評価 ※
62	本科留学生受け入れ対策	SS課	コロナ禍を経て留学生受け入れのデメリットとリスクを考慮し、学校としての留学生対応を再考しなおす。	コロナ禍の影響で、留学生の入学制限や外食産業界の低迷により外国人の雇用状況に変化が生じたため、留学生受け入れの方針変更が必要と考える。	学園学内での意思統一		コロナ禍の継続で不確定要素が多く意思統一するには時期早々と判断		△	多方面からの情報収集の強化	国の政策の影響大		×
63	特定技能1号対象コース準備	教務課・就職課	コロナ禍を経て留学生受け入れのデメリットとリスクを考慮し、学校としての留学生対応を再考しなおす。	コロナ禍の影響で、留学生の入学制限や外食産業界の低迷により外国人の雇用状況に変化が生じたため、留学生受け入れの方針変更が必要と考える。	学園学内での意思統一		コロナ禍の継続で不確定要素が多く意思統一するには時期早々と判断		△	多方面からの情報収集の強化	費用対効果の検討		×
64	日本料理調理技能認定制度対象コース準備	日本料理・教務課	コロナ禍を経て留学生受け入れのデメリットとリスクを考慮し、学校としての留学生対応を再考しなおす。	コロナ禍の影響で、留学生の入学制限や外食産業界の低迷により外国人の雇用状況に変化が生じたため、留学生受け入れの方針変更が必要と考える。	学園学内での意思統一		コロナ禍の継続で不確定要素が多く意思統一するには時期早々と判断		△	多方面からの情報収集の強化	費用対効果の検討		×
65	受講生教育体制の構築と充実	学校全体	受講生受け入れ1年目は東京都と連携し制度通りの教育が実施された。しかしコロナ禍の影響で就労支援の部分で不安を感じている。	受け入れ企業に制度の趣旨を説明し訓練生の受け入れ求人先を開拓。	訓練生の希望に合う求人確保		概ね訓練生の希望に即した就職活動が行われた。		○		費用対効果の検討		○
66	各科受講生の就労先の開拓	就職課	受講生の希望と、コロナ禍の影響で大きなダメージを受けた外食産業界の動向を見極める。	外食産業界の動向を見極めつつ制度の趣旨に即した就職支援を実施。	訓練生14名の内定		卒業時点で10名就職内定・2名未定・2名退学		○				○
67	募集活動の拡大	教務課・広報部	2年目の申請が認可されなかった理由を精査し、適正な募集人数を設定	各科総定員数と制度基準を鑑み各科10名で申請	高度調理経営科(日本料理専攻)10名 高度調理製菓科10名		2年連続で不採用、制度として受託認定の可能性が低い為再検討が必要と判断		×				×

具体的施策			計画内容				結果および自己評価					学校総括	
中期計画 番号	施策名	担当 組織	これまでの教訓 (現状分析・課題)	内容 (目的・意味/手段・行動)	達成基準 (ゴール・目標)	想定され る費用	経緯と結果 (変更点・実施内容・達成内容)	費用	達成度 ※	成果 向上方策	問題点 改善方策	コメント	評価 ※
68	同窓会組織対応	学内 同窓会 委員	学園として同窓会組織の在り方を決める必要があると思われる。	同窓会について本部との会議を開催。	学内同窓会委員会 の設置				×		既存の同窓会組織を動かす必要がある。		×

